

Rapid Response System(RRS)シミュレーショントレーニング
から得た看護職員の RRS に対する意識調査と効果

1. 臨床研究について

九州大学病院では、安全な医療や最適な看護を患者さんに提供するため、急変時の迅速な救急システムの本質を研究し、研究結果を臨床現場に提供できるように努めています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、平成 35 年 6 月 30 日までです。

2. 研究の目的や意義について

Rapid Response System(RRS)以下 RRS は、院内心停止になる前に患者の異常に早期に気づき、心停止を防ぎ、予後を改善する院内救急システムである。2000 年頃に米国で導入され、ICU 入室患者数の減少や院内死亡率の低下に一定の効果があるとされた。¹⁾ 本邦では、2008 年「医療安全全国共同行動；いのちをまもるパートナーズ」の行動 6「急変時の迅速対応」として RRS の普及が進められています。

RRS を成功の 4 つのコンポーネントとして、1) 気づき：患者の異常に気づく、主に看護師が主役、2) RRT：急変に対応できるチームであり、事前にトレーニングが必要、3) データ収集：要請理由・要請者・初期対応など、4) 管理部門のサポートが必要と言われています。このことから、看護職員は RRS の要であると言えます。先行研究として、医師が少ない小規模医療施設での RRS の意識調査は行われていますが、1000 床以上の医療機関で、かつ 24 時間体制で RRS を実施している医療機関の調査研究は見当たりません。

九州大学病院では、2013 年 10 月に RRS が導入され約 4 年経過し、要請件数は増加しています。RRS の目的は、急変の重篤化を防ぎ病棟でのバイタルサインの安定化です。しかし、急変の覚知から要請まで時間を要しており、RRT が到着した時は、心停止の事例もあります。原因として、当該診療科主治医・当直医制度が関係していると推測されます。RRS 要請の職種は主に医師です。主治医等が、急変対応困難となった際に、RRS 要請を実施している事を示唆しています。

よって、当院救命救急センターでは、通常業務の一環として、医師・看護職員・放射線技師・理学療法士を含む RRS シミュレーショントレーニングと、RRS の要と言われる看護職員に対してアンケート調査（RRS シミュレーショントレーニング前後）を実施しました。取得したアンケート情報より、RRS に対する「認知」「知識」「考え」「RRS 要請に対する心理的負担」「RRS 要請を躊躇する要因」を調査し、院内救急体制強化に関する教育手段の基礎資料にしたいと考え、本研究を計画しました。

3. 研究の対象者について

九州大学病院において平成 29 年 6 月 7 日から平成 29 年 12 月 26 日に実施した、RRS シミュレーショントレーニングの前後にアンケートを回答し、提出した看護職員 90 名を対象にします。研究の対象者となることを希望されない方は、事務局までご連絡ください。

4. 研究の方法について

この研究を行う際は、RRS シミュレーショントレーニングに参加し、看護職員に実施したアンケート結果より以下の情報を取得します。取得した情報を統計的手法により比較検討し、看護職員の RRS に対する「認知」「知識」「考え」「要請を躊躇する要因」「RRS 要請に対する心理的負担」「RRS シミュレーショントレーニングの必要性を調査します。

〔取得する情報〕

年齢、性別、所属部署、ハリーコールと RRS の認知及びシステムの違い、RRS 要請経験の有無、RRS の要請者、RRS 要請に対する心理的負担、RRS を躊躇する要因、RRS シミュレーショントレーニングの必要性

5. 個人情報の取扱いについて

アンケート調査結果をこの研究に使用する際には、氏名の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。氏名と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定、調査データを暗号化し、九州大学大学院救命救急センター医局長室内のパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。

この研究によって取得した情報は、九州大学病院救命救急センター長・田口 智章の責任の下、厳重な管理を行います。

6. 試料や情報の保管等について

〔情報について〕

この研究において得られたあなたの情報は、原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学病院救命救急センター長・田口 智章の責任の下、10 年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

また、この研究で得られたあなたの情報は、将来計画・実施される別の臨床研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、あなたの同意がいただけるならば、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される臨床研究にも使用させていただきたいと考えております。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

7. 研究に関する情報や個人情報の開示について

この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、どうぞお申し出ください。

この研究では、学会への発表により、研究成果の公表を行う予定です。

また、ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方はご連絡下さい。

8. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所 九州大学病院 救命救急センター

(分野名等)

研究責任者 九州大学病院 救命救急センター副センター長 赤星 朋比古

研究分担者 九州大学病院看護部 北 3 階病棟 副看護師長 石村 徳彦

九州大学病院看護部 南 8 階 1 病棟 副看護師長 谷口 奈緒

九州大学病院看護部 救命 ICU・ハイケア病棟 看護師長

堀 智恵

九州大学病院集中治療部・救命救急センター 助教 牧 盾

9. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、事務局までご連絡ください。

事務局 担当者：九州大学病院 看護部 北 3 階病棟

(相談窓口) 副看護師長 石村 徳彦

連絡先：〔TEL〕 092-642-5563

メールアドレス：nori1812@med.kyushu-u.ac.jp